

責任ある原材料調達

GRI 2-23

資源保護、環境保全や安全、人権などに配慮した原材料を調達すると共に、トレーサビリティの確保に努め、サプライヤーとの対話を通じ、よりサステナブルな原材料調達をめざします。

社会的課題

製品の原材料調達において、乱開発による原産地の環境破壊、生物多様性の損失、及びサプライチェーンにおける労働者の人権の保護、安全・衛生管理、原産地の地域住民の強制移住、健康被害などが大きな課題になっています。

方針

花王は「調達基本方針」に則りESG調達を推進するため、「お取引先に求めるパートナーシップ要件」、「お取引先とのESG推進活動」及び「ハイリスクサプライチェーンからの調達」を制定しています。

「調達基本方針」では、購買取引の公正・公平、遵法・倫理、社会的責任の項目を定めています。持続可能な社会の実現への貢献をめざし、資源保護・環境保全や安全、人権などへの配慮を定め、遵法・倫理と併せ「ESG調達」に対応しています。

「お取引先に求めるパートナーシップ要件」では、遵法・倫理、人権・労働、公正・公平、サプライチェーンマネジメント、環境管理、持続可能性などの要件への遵守をサプライヤーに求めています。花王とサプライヤーとのあいだで締結する取引基本契約書においては、上記の環境・人権・労働等に関する条文を明記しています。

「お取引先とのESG推進活動」では、持続可能なサプライチェーン構築、“ハイリスクサプライチェーン”へ

の取り組み、お取引先との連携強化を定め、お取引先と共に、サプライチェーン全体のトレーサビリティを確保し、資源保護・環境保全や安全、人権などの社会的課題の解決に貢献します。

この、「調達基本方針」「お取引先とのESG推進活動」の方針に基づき、世界各国・各地域のサプライヤー約3,000社※1と取引を行っています。

※1 直接購入原材料サプライヤー

これらのサプライヤーの中から、持続可能な調達に及ぼす影響を評価し、リスクの優先順位付けやリレーションシップの重要度を考慮して、重要サプライヤーを特定しています。

また、「ハイリスクサプライチェーンからの調達」では、持続可能な天然資源の調達への取り組みを定め、パーム油及び紙・パルプの調達に関する行動指針を規定し、本質的な課題解決に向けたアプローチを記載しています。特に森林破壊ゼロに対しては、NDPE※2を支持し、サプライヤーとそのグループ企業、またその投資先企業に対してNDPEの遵守徹底の要求と確認を進めています。

※2 NDPE

No Deforestation, No Peat and No Exploitation (森林破壊ゼロ、泥炭地ゼロ、搾取ゼロ)

また、「調達基本方針」「お取引様とのESG推進活動」「ハイリスクサプライチェーンからの調達」について改定する場合は、サステナビリティ関連課題(ESG課題)への具体的な行動をサプライヤーに期待した「お取引

先に求めるパートナーシップ要件」とのあいだに不整合がないことを確認します。

P343 生物多様性



調達基本方針

<https://www.kao.com/jp/sustainability/we/procurement/procurement-policy/>

お取引先に求めるパートナーシップ要件

<https://www.kao.com/jp/sustainability/we/procurement/procurement-partnership/>

お取引先とのESG推進活動

<https://www.kao.com/jp/sustainability/we/procurement/procurement-esg/>

ハイリスクサプライチェーンからの調達

<https://www.kao.com/jp/sustainability/we/procurement/procurement-supply-chain/>

生物多様性の基本方針

<https://www.kao.com/jp/sustainability/klp/policy/biodiversity-policy/>

戦略

リスクと機会

リスク

調達におけるリスクには、異常気象や自然災害、地政学的な影響や国際紛争などさまざまな要因による原材

責任ある原材料調達

料価格の変動により、計画どおりに調達ができなくなるリスク、需要の急激な変化やサプライヤーのトラブルにより、安定調達が損なわれ製品の市場への供給に支障をきたしてしまうなどのリスクがあります。

また、花王グループの原材料はパーム油や紙・パルプ等の自然資本に大きく依存しており、省資源、地球温暖化防止、生物多様性保全等の環境面、安全・衛生、労働環境、人権等の社会面に十分配慮し、持続可能な調達を実現することで、企業としての社会的責任を果たしていく必要があります。そうした中、サプライチェーン上の何らかの理由で、持続可能な責任ある調達への取り組みが不十分と見なされた場合、当社グループのブランドイメージ、信用の低下につながる可能性があります。

機会

原材料の調達として、サステナブルな社会に貢献するためには、ESG調達が重要です。

環境面では「ハイリスクサプライチェーンからの調達」に基づいたパーム油、紙・パルプの調達を推進し、社会面では「花王人権方針」に基づく人権デュー・ディリジェンス、「お取引先に求めるパートナーシップ要件」に基づくサプライヤーのリスクアセスメントを実施しています。また、2030年までの「ESG調達」を中心とした中長期目標をKirei Lifestyle Planに定め、責任ある調達を推進しています。

これらの活動を継続していくことによって「ESG調達」の分野において世界のトップランナーをめざします。

戦略

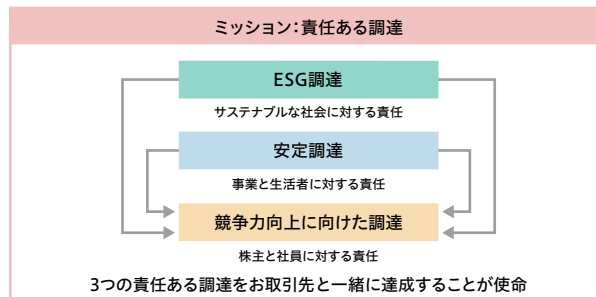
花王の購買部門は、「ESG調達」と「安定調達」の2つを基軸とし、さらに「競争力向上に向けた調達」を加えた責任ある調達を推進します。

ESG調達においては、サプライチェーン全体においてESG観点を考慮し、サプライヤーと協力してESG課題の解決に取り組んでいます。また、安定調達においては、サプライヤーとの長期的な関係構築をめざすと共に、リスクマネジメントを徹底し、安定的な調達体制の確立をめざします。

競争力向上に向けた調達においては、上記ESG調達、安定調達を達成するためにサプライヤーとの協力関係を強化し、コスト削減や品質向上に取り組んでいきます。

これらの3つの活動をお取引先と一緒に推進することにより、生活者及び顧客の皆さまに安心していただく製品を提供します。

責任ある調達



サプライヤーの選定

サプライヤーの選定は、経営状態の確認に加え、Sedexや自社調査票を用いたESG調査を実施し、その評価結果も加えて総合的に判断を行っています。

その中でも重要サプライヤーについては、

●ビジネスの視点

- ・自社事業への影響が大きいサプライヤー：購入金額を基準に選定
- ・切り替え困難なサプライヤー：意匠や機能に特徴のある包装材料サプライヤー、製造委託先

●エリアの視点

- ・紛争地域、人権問題等で指摘のあるエリア
- ・自然林など環境保護エリア：森林資源（パーム油、紙・パルプ）のサプライヤー

●ESGの視点

- ・天然素材を原材料とする原料
- ・人権リスクの高いサプライヤー：Sedex、花王SAQ未回答や低評価のサプライヤー
- ・不適切行為、不正行為を行ったサプライヤー

の3つの視点から決定しています。

ESGリスクの評価

花王は、サプライヤーの人権リスクやその他ESGに関するリスクを把握するため、Sedex及び花王SAQの自己評価結果と併せ、花王担当者がサプライヤー訪問し、サプライヤーの現地評価を実施しています。それら

責任ある原材料調達

評価結果から、リスクが高いと判断したハイリスクサプライヤーに対して、第三者監査(SMETA監査)の実施を求め、課題の改善につなげていきます。

持続可能な原材料の調達

花王は、資源制約、生物多様性の劣化や地球温暖化などの環境問題、人権問題などを踏まえ、持続可能な開発におけるリスクを認識し、持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。

また、これらの取り組みは、サプライチェーン全体で管理することが重要であり、「気候変動」「水」及び「森林」についてCDPサプライチェーンプログラム※1に参加し、主要なサプライヤーに情報開示を依頼しています。

※1 CDP サプライチェーンプログラム
CDPは、機関投資家の運営による非営利団体であり、気候変動・水・森林に関する情報開示を企業等に求める活動等を行っている。サプライチェーンプログラムとは、メンバー企業が自らのサプライヤーに対し、気候変動・水・森林に関わる情報開示についてCDPプラットフォームを用いて求める取り組み

パーム油の調達

花王にとって、最も大切にすべき天然資源はパームであり、持続可能なパーム油調達に向けた活動を進めています。サプライチェーンにおけるリスク把握・改善の取り組みとして、農園までのトレーサビリティの確保、RSPO※2認証油への100%切り替えを推進します。さらに、課題の本質解決に向けて小規模パーム農園の支援及び小規模パーム農園を対象にしたグリーンバンスメカニズムを導入します。

※2 RSPO: Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議)

社会的インパクト

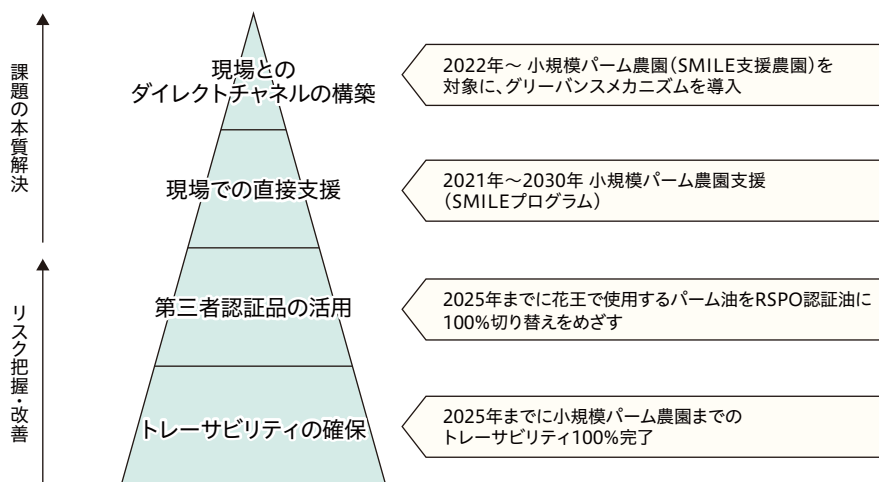
製品の原材料調達において、乱開発による原産地の環境破壊、生物多様性の損失、及びサプライチェーンにおける労働者の人権の保護、安全・衛生管理、原産地の地域住民の強制移住、健康被害などは、社会的課題として大きな問題となっています。これらの課題に対処することで、以下のような効果が期待されます。

・環境保護: 製品の原材料調達において、乱開発による原産地の環境破壊や生物多様性の損失を防ぐことで、

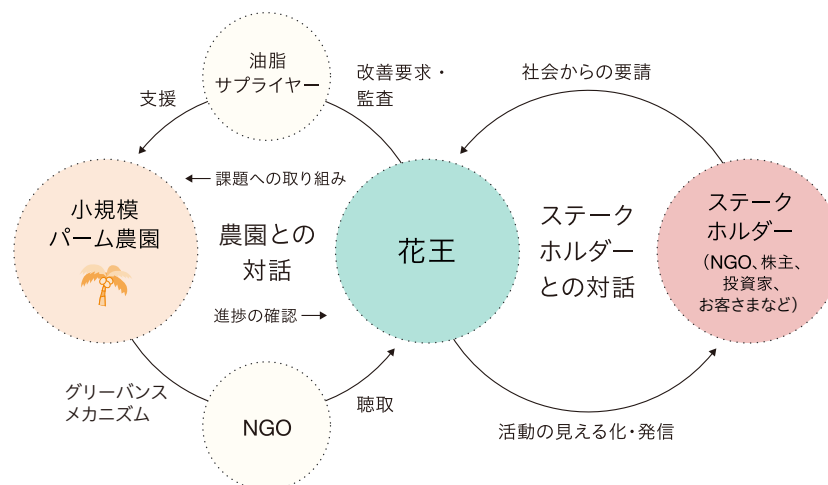
持続可能なパーム油調達に向けた活動

本質解決に向けた取り組み

花王の重点活動



小規模パーム農園を対象にしたグリーンバンスメカニズムの運用



責任ある原材料調達

地球環境を保護することができます。

- ・人権保護: サプライチェーンにおける労働者の人権の保護を行うことで、社会的責任を果たし、人権侵害を防ぐことができます。
- ・地域住民の保護: 原産地の地域住民の強制移住を防ぐことで、地域住民の権利を保護することができます。
- ・健康被害の防止: 安全・衛生管理を徹底することで、原産地の地域住民の健康被害を防ぐことができます。

これらの影響を考慮すると、製品の原材料調達において、社会的課題に対処することは、企業にとっても社会にとってもプラスになることが期待されます。

貢献するSDGs



事業インパクト

ESG 調達は、環境面及び社会面のリスク低減、コスト抑制、ブランドイメージ及び社会的信用の向上、安定的な事業運営実施、レピュテーションリスク回避など、多くの事業メリットにつながります。

具体的には、ESG 調達により、以下のような事業メリットが得られます。

- ・環境面では、再生可能エネルギーの導入や廃棄物のリサイクルなどにより、環境負荷を軽減することができます。
- ・社会面では、人権問題や労働問題などに対処することで、社会的信用を向上させることができます。
- ・持続可能な原材料の確保による、事業運営の安定性を保ちつつ、レピュテーションリスクを回避することができます。
- ・ブランドイメージの向上につながり、顧客の信頼を得ることができます。

ガバナンス

体制

取締役会の監督のもと、「責任ある原材料調達」に関するリスク管理は内部統制委員会で、機会管理はESGコミティで行っています。これら委員会の委員長は共に代表取締役 社長執行役員が務めています。

「責任ある原材料調達」に関するリスク管理は、内部統制委員会(年2回開催)とその下部組織のリスク・危機管理委員会(年4回開催)で実施しています。委員長はコーポレート戦略部門担当役員が務めています。

「責任ある原材料調達」に関する機会管理は、ESGコミティ(年6回開催)で実施しています。外部有識者で構成されるESG外部アドバイザリーボードがESGコミティの諮問に対する答申や提言を行い、社外の視点を経営に反映し、ESG推進会議がESG戦略を遂行しています。

加えて「人権・DE&I ステアリングコミティ」が役員クラスのオーナーのもと、戦略策定から実行計画化も実施し、確実かつ迅速に実行に移しています。

購買部門は、ESG 調達、安定調達及び競争力向上に向けた戦略調達の3つの方針を戦略的にコーディネートして競争優位性を実現することにより、すべてのステークホルダーに対して「責任ある調達」を推進します。「責任ある調達」を実践するために、組織体制を、「戦略ソーシング」組織と、「オペレーション革新」組織とに編成しています。

「戦略ソーシング」組織では、3つの調達方針に基づいた中長期的な調達戦略を策定し、実行することを主なミッションとし、「オペレーション革新」組織では、効率性やタイムリーなサプライチェーン上の情報共有に関する革新を主なミッションとして活動しています。

P25 Our ESG Vision and Strategy > ガバナンス

教育と浸透

責任ある調達を実行するためには、購買部門の社員一人ひとりが必要な知識を習得し、「調達基本方針」や各種ガイドラインを理解して行動に移していくことが必要です。このため、さまざまな研修や啓発活動を行っています。例えば、新卒・キャリア入社社員の導入研修、若手部員研修等で、ESG 調達、安定調達、戦略的調達の理解を深めています。

責任ある原材料調達

ステークホルダーとの協働

花王は、国内外のサプライヤーとベンダーサミット、品質向上会議等を通じて意見交換を行っています。

ベンダーサミットでは、年度ごとにテーマを決めてコミュニケーションを図っています。

このベンダーサミットで実施しているお取引先表彰制度で、「戦略的パートナー」「ESG」「安定供給」の観点から、それら取り組みが優秀なお取引先を表彰しました。

また、これら表彰の際には、優秀なお取引先の取り組みをベンチマークとして共有し、参加企業のESG調達、安定調達について能力を向上いただくための協力を行っています。

また、サプライヤーのモニタリングにSedexを活用し、Sedexへの加盟、回答等を求めることでサプライチェーン全体でのリスクアセスメントを図っています。また、CDPサプライチェーンプログラム等さまざまな取り組みを通じて、サプライヤーとの連携を強化し、グローバルな調達の推進に取り組んでいます。さらに、海外のビジネスパートナーと共に社会的課題に向けた本質的な課題解決に取り組んでいます。

また、持続可能な調達やトレーサビリティの確立などをめざして、NGOとの対話を継続して実施しており、併せて他社・外部団体とも活発に意見を交わしています。

リスク管理

購買部門では、異常気象や自然災害、地政学的な影響や国際紛争などさまざまな要因による原材料価格の変動によるリスクに対して、計画どおりに調達ができなくなる可能性に備えて、リスク管理プロセスを強化し、代替の調達先を確保するなどの対応策を実施しています。また、需要の急激な変化やサプライヤーのトラブルにより安定調達が損なわれ、製品の市場への供給に支障をきたしてしまうリスクに対して、生産部門と共に需要予測の精度向上やサプライチェーンのリスクマネジメントを強化するなどの対応策を実施しています。

P40 Our ESG Vision and Strategy > リスク管理

指標と目標

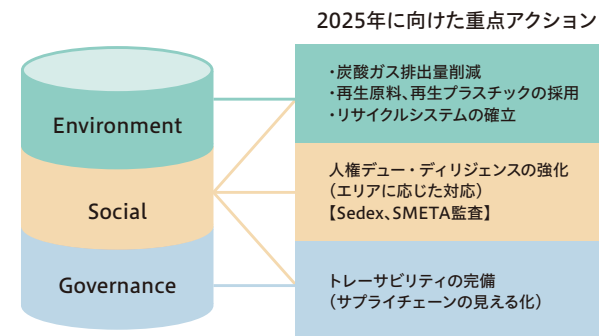
中長期目標と2023年実績

中長期目標

「ESG調達」における環境面では原材料の炭酸ガス排出量の削減、再生原料・再生プラスチックの採用、容器のリサイクルシステムの確立などに取り組めます。

社会面ではSedex及びSMETA監査の推進によりサプライヤーの人権デュー・ディリジェンスの強化に努めます。

ガバナンス面では原材料の原産地までのトレーサビ



リティを確保し、サプライチェーンの見える化をめざします。

特にパーム油・パーム核油の調達においては、トレーサビリティの確保、RSPO 認証油の購入推進から、さらに、小規模パーム農園支援、グリーンバンスメカニズムの構築、森林フットプリントの公開へとサプライチェーン上での本質的な課題解決に向けて活動を拡大しています。

1. トレーサビリティの確保

パーム油・パーム核油の調達においては、生物多様性の保全に配慮し、森林破壊ゼロをめざします。また、2025年までに花王グループが使用するすべてのパーム油をRSPO 認証油とすることをめざし、さらに、2025年までにパーム農園までのトレーサビリティ確認完了をめざします。

紙とパルプの調達においても、生物多様性の保全に配慮し、森林破壊ゼロをめざし、2025年までに家庭用製品に使用する紙製品及びパルプを100% 認証品とするこ

責任ある原材料調達

とをめざします。また、原産地までのトレーサビリティも引き続き確認します。

2. 人権への取り組み

さまざまな人権問題のリスクに対応するため、2015年に「花王人権方針」を定めました。花王の活動に加えサプライヤーへも「お取引先に求めるパートナーシップ要件」に基づく人権のための行動を要請し、人権デュー・ディリジェンスを実施しています。

このリスクを評価するため、2014年に世界的な企業倫理情報共有プラットフォームであるSedexに加盟し、サプライヤーにも加盟を要請しています。2025年までにサプライヤーのデュー・ディリジェンスの実施率を100%とすることをめざします。また、ハイリスクと評価されたサプライヤーに対してはSMETA監査の実施を求め、課題の改善につなげていきます。

2023年実績

1. トレーサビリティの確保

・パーム油・パーム核油の調達

農園までのトレーサビリティの確認:87%

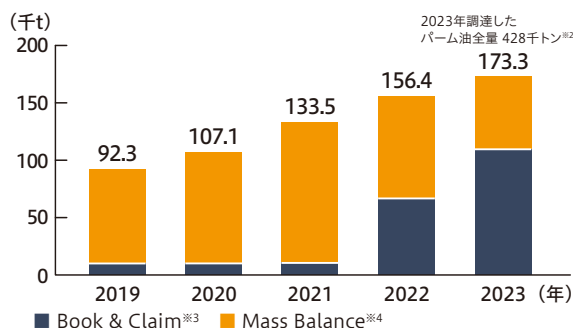
認証油の調達:パーム油全量に対するRSPO 認証油比率:40%

小規模パーム農園の支援:839農園がRSPO 認証取得

グリーンバンスメカニズムの導入:2022年9月運用開始

 パームダッシュボード
https://www.kao.com/jp/sustainability/we/procurement/palm-dashboard/

認証油購入実績^{※1} (花王グループ)



※1 認証パーム油、認証パーム核油及び認証パーム由来原料の合計

※2 パーム油、パーム核油及びパーム由来原料の合計

※3 Book & Claim

RSPO 認証クレジットを生産者と最終製造者、販売者とのあいだでオンライン取引する認証モデル

※4 Mass Balance

流通過程で認証油と非認証油が混合されるが、購入した認証油の数量は保証される認証モデル

・紙・パルプの調達^{※5}

トレーサビリティの確認:100%

うち、紙・パルプの認証品比率^{※6}:98% (2023年12月時点)

※5 花王製品に使用する紙・パルプ(一部製品を除く)を対象とします。

※6 紙・パルプの認証品比率は調達品目ごとの認証品重量の比率を集計しています。

2. 人権への取り組み

Sedexによるアセスメントを2017年から実施して

います。2018年よりアセスメントの対象をグローバルに拡大しています。^{※7}

Sedex によるサプライヤーのリスクアセスメントでの総合評価 (2023年12月時点)

総合評価	SAQ 回答率 ^{※8}	Sedex リスク評価 ^{※9}	割合
S	80%以上	3.0以上	25%
A	80%以上	2.0以上3.0未満	38%
B	80%以上	2.0未満	29%
C	80%未満	—	8%

※7 評価対象はSedexのSAQ(自己評価アンケート)に回答した1,339サイト

※8 SedexのSAQに対する回答率

※9 Sedexアセスメントツールによるマネジメントコントロールスコアの値(0~5、値が大きいくほどマネジメントが良好)

また、2021年より、ハイリスクサプライヤーに対してSMETA監査の実施を開始しました。2023年はハイリスクサプライヤー30社に対してSMETA監査を実施しました。その結果深刻なリスクを指摘された会社はありませんでした。一方、すべてのサプライヤーは軽微な指摘を受けており、是正計画書を提出して是正を実施中です。

SMETA監査の実績

SMETA監査数	30
重篤な課題のあった会社割合	0%
軽微な課題のあった会社割合	100%
軽微な課題のあった会社のうちは是正計画書提出済み	100%

責任ある原材料調達

サプライヤー数及び重要サプライヤー数実績 国別サプライヤー％

地域	割合(%)
日本	32
アジア	38
米州	11
EMEA	19

カテゴリー別サプライヤー％

カテゴリー	割合(%)
原料	67
包材	18
製造委託	15

重要サプライヤー数

カテゴリー	
Tier 1 重要サプライヤー 総数	187社
Tier 1 重要サプライヤー 支出割合	20%
Non-tier1 重要サプライヤー 総数	80社

CDPサプライチェーンプログラム実績

	回答率
気候変動	85%
水	94%
森林	98%

2023年実績に対する考察

パーム油の原産地(パーム農園)までのトレーサビリティの確認については、87%完了しました。トレーサ

ビリティについては引き続き、サプライヤー、農園、NGOなどさまざまなステークホルダーと連携して進めていきます。小規模パーム農園の支援では、のべ839農園がRSPO 認証を取得することができました。また、グリーンバンスメカニズムの導入については、現在212農園まで対象を拡大しています。

紙・パルプの原産地までのトレーサビリティは2022年に引き続きほぼ100%となり、認証品比率は98%となりました。2025年100%達成を2024年に前倒しするべく、引き続き小規模のサプライヤーに対して認証品の導入、サステナビリティの確認を働きかけます。

人権への取り組みについては、グローバルの直接材全サプライヤーに対してSedex への加盟、質問への回答、データへのアクセス権の設定の要請を進めています。2023年末時点でグローバルの取引の97%(金額ベース)がSedex 加盟会社(代替プログラム、花王 SAQ 含む)との取引となりました。今後さらにSedex への加盟を求めると共に、Sedex アセスメントツールによるESG 評価結果が低いサプライヤー(B 評価、C 評価)には目標として、総合評価が“ A ” 以上ということを明確にして、改善を要する項目についての見直しを求めています。

ハイリスクサプライヤーに対するSMETA 監査は、2023年は、対象会社との十分な対話により理解を得られた結果30社に実施することができほぼ目標を達成しました。2024年は、引き続きハイリスクと評価したサプライヤーについて監査を完了する予定です。

P120 脱炭素 > 原材料購入における取り組み

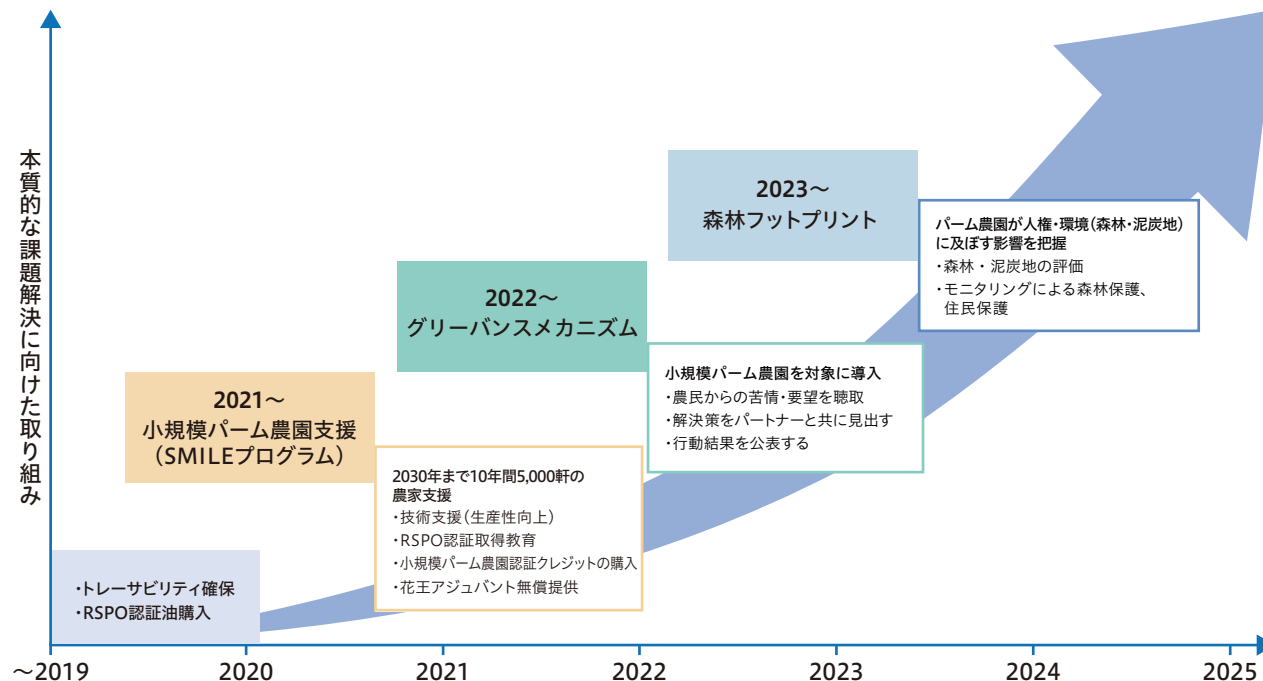
責任ある原材料調達

主な取り組み

最も大切にすべき天然資源パーム

花王にとって、最も大切にすべき天然資源はパームであり、持続可能なパーム油調達に向けた活動を進めています。

パーム油サステナビリティ活動
～花王らしく貢献し、世界のトップランナーとなる～



小規模パーム農園の支援

花王、油脂製品製造・販売会社のアピカルグループ、農園(プランテーション)会社のアジアナグリの3社は、パーム油の持続可能なサプライチェーンの構築をめざし、インドネシアの小規模パーム農園の生産性向上、持続可能なパーム油に対する認証の取得を支援する「SMILE プログラム」(SMallholder Inclusion for better Livelihood & Empowerment program)を実施しています。

この活動は、2030年までに約5,000農園を対象に、プランテーション会社の教育専門チームが農地管理、労働安全、火災管理など生産に関する技術指導とRSPO 認証取得に向けた教育と支援を行い、農園の認証取得後の認証クレジットは全量花王が買い取ります。小規模パーム農園の認証クレジットは、認証プレミアムを小規模パーム農園が直接受け取ることができるしくみで、これにより農園の安定的な収入を得ることができます。

2020年から開始したPhase1及び2022年から開始のPhase2では、スマトラ島ののべ3,083農園を対象に支援を実施し、2023年までに839農園がRSPO 認証を取得、この認証取得農園から9,996トンの独立小規模パーム農園認証クレジットを購入しました。

また花王の農薬展着剤「アジュバント※1」の無償での支給も実施しています。この花王の農薬展着剤「アジュバント」の無償支給については、2023年のべ628農園への配布を実施しました。

※1 花王が開発した植物原料由来の高機能の農薬展着剤。農薬散布時に薬剤が濡れ広がるように植物表面に展着させる

責任ある原材料調達



グリーンバンスメカニズムの導入

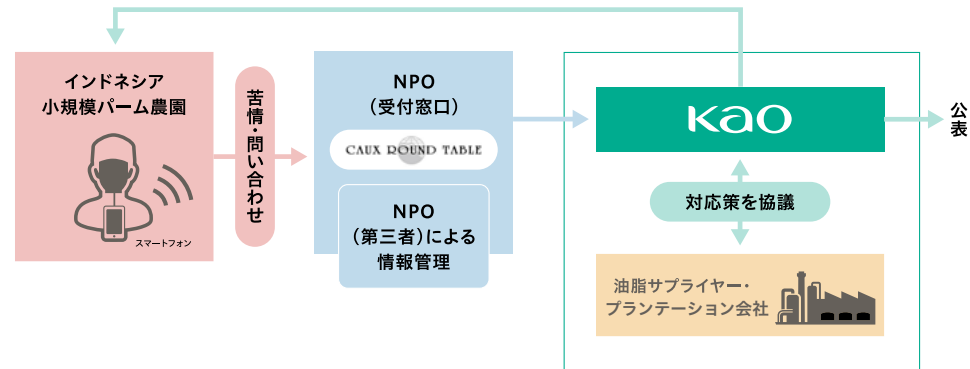
「SMILE プログラム」で支援するインドネシアの小規模パーム農園の人権問題への迅速な対応手段として、グリーンバンスメカニズムを開始しました。花王グリーンバンスメカニズムでは、パーム油を使用する花王とNPOが、油脂サプライヤー・プランテーション会社と共に、独立小規模パーム農園（農家）からの苦情（人権侵害、土地紛争など）や、農園運営に関する問い合わせ（RSPO 認証取得、農園での労働安全、生産性向上のためのアブラヤシの植え替え、苗／肥料の購入など）を直接受け付けます。そして、「調査」「対応」「解決」「フォローアップ」、定期的なグリーンバンスリストの公開による「報告」を行います。

2023年にはインドネシアの北スマトラ島の212農園を対象にしており、213件の問い合わせが寄せられ、その対応をしています。

一方、2023年9月には、ダイアログ（直接対話）を行うため、日本及び現地の社員（花王からは執行役員である購買部門統括を含む7名、油脂会社／プランテーション

花王 小規模パーム農園グリーンバンスメカニズム

● 小規模パーム農園との直接対話 ● 苦情・問い合わせ内容の確認・調査と対応 ● NPO/サプライヤーと協働でフォローアップ



会社からはサステナビリティ担当を含む6名）が、共に北スマトラ州ラブハンバトゥ県のシドルクン村を訪問しました。この訪問では、小規模パーム農園の農民50名とのダイアログが実施され、サステナビリティに関する質問をはじめとする多くの質問や提言が参加者から出されました。これらの意見交換は双方の理解を深め、よりよい関係を築くための貴重な機会となっています。

購入電力の取り組み

購買部門では、花王グループにおけるすべての活動で、環境負荷が低いエネルギーを安定的かつ安価に利用できるように調達活動をしています。

花王では、購入電力のすべてを再生可能エネルギー由来とする調達を行ってきており、日本の全拠点では2023年に再生可能エネルギー100%を達成しました。

加えて、国内最大規模となる合計15.6MWの太陽光発電所から創出する環境価値の全量を購入するバーチャルPPAを花王グループで初めて導入しました。2024年2月までに総量の49.5%となる約7.7MWの発電所が稼働しており、2024年6月までにすべての発電所が稼働する計画で進めています。

バーチャルPPAとは、新たに設置される太陽光発電設備の発電量に応じた環境価値のみを直接購入する契約で、実際の使用電力は、小売電気事業者との電気需給契約によって供給されます。また、この契約によって再生可能エネルギー発電設備の直接投資がされるため、社会全体の再エネの総量が増える「追加性」を持ち合わせています。

バーチャルPPAは、花王の先進的で持続可能な事業活動に寄与すると共に、再生可能エネルギーの普及と環境負荷低減に貢献します。

責任ある原材料調達

GRI 308-2, 404-2, 414-1, 414-2

サプライヤーとの協働

サプライヤーのモニタリング

環境、安全、法令と社会規範の遵守、人権・労働問題の取り組みなどを定めた「お取引先に求めるパートナーシップ要件」の遵守状況の確認、リスクアセスメントにSedexを活用しています。2014年加盟後、2016年より本格的に活用を開始し、グローバルな全直接材料サプライヤーに対し、Sedexへの加盟とデータへのアクセス権設定を求めています。

Sedexへの加盟が困難なサプライヤーに対しては、Sedexを補完する評価ツールとして、独自の調査票(花王SAQ)も活用しています。花王SAQは法令遵守・人権・取引慣行等の社会的責任の項目と汚染防止(大気、水等)を含めた環境方針・環境目標・各種管理等の環境保全の項目から構成されます。

新規サプライヤーの採用にあたっては、同様のアセスメントを実施しています。

花王ベンダーサミット

2023年は2022年と同様にリモートで開催しました(日本、海外)。2023年のベンダーサミットにおいては、「責任ある調達」に向けてESG調達(Sedex加入、SMETA監査実施、CDPサプライチェーンプログラム参加、LC-CO₂の取り組みなど)及び安定調達(原材料のトレーサビリティ、情報セキュリティ対応など)について、花王とサプライヤーが共に取り組む活動の説明と協力を要請しました。

ベンダーサミット出席会社数(単位：社)

	日本開催	日本以外開催	合計
2019年	239	267	506
2020年	中止	中止	—
2021年	246	108	354
2022年	273	29	302
2023年	292	82	374



お取引先満足度調査

花王は自身が公平・公正な調達活動を行っているかを確認するため、「お取引先満足度調査」を概ね3年ごとに実施しています。

2023年に調査を実施し「発注先選定」「品質」「発注」「接客」「コミュニケーション」等について、244社の取引先より貴重なご意見をいただきました。

接客態度や品質要求については、高い評価をいただきました。一方、発注後の変更や不採用の内容開示、見積書の書式について、課題があることがわかりました。発注後の変更については、継続して社内関連部門と情報共有し改善していきます。不採用の内容開示は、取引先に納得いただける説明を徹底していきます。見積書書式についてもシステムの改善を進めていきます。

満足度調査回答会社数(単位：社)

	原料供給会社	包材包装資材供給会社	機器・間接材供給会社	合計
2010年	55	68	44	167
2013年	71	59	45	175
2016年	78	69	52	199
2020年※1	105	69	36	210
2023年	111	80	53	244

※1 2019年は当初計画では実施年にあたりましたが、購買部門の体制変更を進めたことから2020年の実施となりました。

教育と浸透

社員研修や啓発を実施(日本)

花王では、新たに購買部門に配属された社員に対し、「公正・公平」「遵法・倫理」「社会的責任」などの購買基本姿勢について教育し、国連グローバル・コンパクトやISO 26000で求められている、人権・労働などグローバルな社会的課題の認識を持たせるようにしています。2023年は、新たに購買部門に配属された社員5人に対し購買基本姿勢について教育しました。

検定受験の推進(日本)

購買部門の社員一人ひとりが社会や環境との関係を認識し、行動を変革するための教育として、資格試験の受験を推進しています。2023年は環境社会検定試験®(eco検定® ※2)の受験を推進し、2023年の部門在籍者の累計合格者は90%となりました。

※2 eco検定®：環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の促進をめざす検定試験